

## 不登校を考える親の会からの意見聴取

日時：令和3年3月3日（水）19:00～20:15

場所：みますや

参加人数：不登校児童の親 15 人

富士市は令和4年4月の施行を目指して子どもの権利条例の策定作業をしている。  
ご意見をいただきたい。

- 子どもの視点でわかりやすい条例になると良い。子どもの意見をぜひ優先して欲しい。
- 学校は、「学校に行くことを前提」とした決まりや通知が多い。学校に行けても行けなくても平等に扱って欲しい。不登校の子は肩身が狭い思いをしているので、救ってあげられる言葉が学校サイドから欲しい。
- 学校に行かなくても学べる仕組みがあると良い。
- 「権利」をかみ砕いてわかりやすくして欲しい。
- 学校へ行ってもルールがたくさんあって一人ひとり合わない。選択の情報がまちまちだったりする。個に寄り添った対応を願う。
- 学校に行かないことが、世間からマイナスイメージをもたれてしまう。当事者の子どももマイナスイメージを持ちやすい。学校に行かないことも権利だと認めてもらえると良い。
- 教育の目指す姿が分からない。
- みんな「普通」という言葉に敏感で、「普通」を好む風潮がある。しかし、「普通」の定義は難しい。人それぞれでいいのではないかと思う。
- 「自分で自分を大事にしていい権利」があると良い。
- 今の子どもは選択肢がありすぎて子ども自身もどうしたらよいかわからないので、自分で選択できないことが多い。多く与えられていて、待つ子どもが多いと感じられる。自分で決断する力がついてくれると良い。
- 親も子どもも幸せになれる条例ができると良い。
- 不登校になったことは新たな人生の始まりだと考えている。失敗する権利や、やり直せる権利があると良い。
- 子どもは、失敗しても大丈夫ということを知ると前向きになれる。それは時間がたつと気づくことで最初はとても苦しいもの。苦しい時に救ってあげられる言葉が欲しい。
- やり直せる環境がいくつもあり、そのことを子ども自身や子どもを取り巻く大人が知っていることが大切なのは。
- 失敗した後もやり直しができるので、失敗したと思わないような制度や言葉が条例の中にあるといい。
- 今までは普通が良い、みんなと同じが良いと思っていたが、不登校(の親)を経験してみて周りとは違って良いというように価値観が変わった。

- ステップスクールは半ば強制的に学校に戻そうとするので、強いストレスを感じた。そうではなく子どもの居場所となって欲しい。
- 不登校になっても学校でステップスクールのことを教えてくれなかった。学校に相談すればすべての情報を教えてもらっていると思っていたが違っていた。それぞれの分野に相談に行かないと情報が得られない。
- 教育委員会と福祉部門の連携のもと、ワンストップですべての情報が入るといい。
- 「みんなで育てる」みたいなものがあると良い。
- 不登校になりかけの時に教室以外の場所(保健室等)の通学を申し出たら、学校に断られた。学校の中に居場所があるといい。
- 教室には行けないけど、学校には行くことができる子どももいる。学校に子どもの居場所の機能があれば、不登校などの重症化を防げると思う。
- 教室には行けなくても学校には行きたい子どもはいる。
- 親が安心することで、子どもに安心が伝わる。